

学校自己評価システム取組状況調査報告書

平成27年度

県立学校評価委員会

学校名	埼玉県立岩槻北陵高等学校		Aグループ
項目	調査の観点	取組状況に関する所見	
目指す学校像	目指す学校像は、学校の現状、課題等を踏まえて設定されているか。	生徒の学力や生活実態を学校全体で日常的に把握し、課題の共通理解に努めている。学校に寄せられる期待に十分応え、学校の特色や強みを更に生かしたものにするとともに、学校のミッションを端的に表現できるような分かりやすい学校像にできると良い。	
重点目標	学校が抱える課題の解決に向け、児童生徒の実態など学校の状況を踏まえて、目標の重点化が図られているか。	学校の取り組むべき方向が三つの柱として設定されている。目指す学校像を踏まえ、重点目標が明確かつ具体的に示されており、日々の教育活動の指針となっている。学校が改善のキーワードとして掲げている項目と重点目標とが関連付けられると更に良い。	
重点目標達成への取組	重点目標の達成に向けた組織体制が整備され、適切に機能しているか。	学校全体のシートに基づいて分掌・学年等のシートが作成されるなど、重点目標達成のための取組が進められている。各分掌、学年等が連携しながら目標達成を目指す体制が整えられ、適切な方策が策定されている。様々な資料に基づき取組の検証を行いながら、組織的な取組を進めている。	
	方策は適切に策定され、効果的に実施されているか。	生徒の帰属意識を高めるための「団活動」、計画的な行動を促すための「生徒手帳の刷新」、基礎学力の向上のための「学び直し教材の活用」など、意欲的な多くの取組を行っている。シート上の方策や指標がやや抽象的であるので、具体的な方策として位置付け、教職員間でその達成イメージを共有できるような分かりやすい指標を設定することが望まれる。	
	校長の的確なリーダーシップの下、教職員が共通理解を深めながら組織的に取り組んでいるか。	校長が学校の現状を踏まえた明確な学校経営の方針を持ち、取り組んでいる。教職員一人一人を的確に生かし、組織力を高めようとする校長の意欲が感じられた。更に共通理解を深め、目標の達成を目指すことが期待される。	
	学校関係者評価等を踏まえて、達成状況や課題を検証し、取組の改善・更新が行われているか。	地域との関係を大切にし、学校関係者の意見やアンケート結果などを謙虚に受け止め、自己評価のための情報が収集されている。その情報を詳細に分析して新たな課題の析出や方策の見直しを検討するなど、次年度のより具体的な取組につなげ、更なるスパイラルアップを進めていただきたい。	
特記事項			